

【指揮】天沼 裕子 (AMANUMA Yuuko)

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業後、ドイツ、ハノーファー音楽演劇大学で指揮を学ぶ。1988年、E.v. ベイナム賞を受賞。89年「オーケストラ・アンサンブル金沢」の初代常任指揮者に迎えられる。指揮者として日本、ドイツ、チェコ、ベルギー、フランス、ルーマニア、韓国、モロッコで客演するなど多彩に活躍。2005年よりバイエルン州立ヴェルツブルク音楽大学のオペラ科およびコレペティトール科主任教授に就任。「ラ・カーザ・デルチエロ」熟年音楽家のためのホーム創立委員会を2004年に設立。オペラ作曲家としても活躍中。新国立劇場オペラ研修所では2012年オペラ試演会『スザンナの秘密』、13年『魔笛』（短縮版）で登場。

【演出・指導】栗國 淳 (AGUNI Jun)

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。ローマ歌劇場の演出部で研鑽を積む一方、新国立劇場ではF.ゼッフィレリ、L.ロンコーニ、等巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、ヘニング・ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニ等の片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』、『アイーダ』、『オテロ』東京二期会『仮面舞踏会』愛知トリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』、『ノルマ』、日生劇場オペラ・日本初演『アイナダマール』、紀尾井ホールバロックオペラ『オリンピーアデ』、新国立劇場『チェネレントラ』『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『外套』等多数の作品を手がける。海外では『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』『ホフマン物語』を演出。オペラを観ながら演劇の心理劇を見ているかのような錯覚を観客に抱かせる演出は、国際的にも評価が高い。新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。日生劇場芸術参与。11年度エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。